

「朝日の滝」縁起看板

『法尻諏訪の山々から湧き出る此の滝は靈験があり、不治の病も治すといわれ人々に親しまれてきた。

昔一人のハンセン病患者が一心に病氣平癒を祈りこの滝に 打たれていたところ、何処からともなく現れた一匹の 白蛇が病人の患部をなめつくして立ち去ったという。 打たれ終わり我に返ると既に病は完治していた。

この事が知れ渡ると全国から沢山の参拝者が訪れ、 参道には茶店・旅籠が立ち並び賑わったといわれている。 堂内には阿弥陀如来、薬師如来、不動明王、賓頭盧尊者 の四尊が安置され秋には盛大な祭が行われている。

又此の社には六十年毎に大祭が行われ祭の前年になると 境内の櫟の葉が県下一円に舞い散り来年の祭りを知らせた という言い伝えがある。その大櫟も度重なる台風の 被害により今は社の南側に一本を残すのみとなった。県下でも屈指の巨木である。』

【現地案内板（呉羽山観光協会）】